

第1回安全・安心な地域づくり部会 議事録

(開催要領)

1. 開催日時：令和4年11月28日（月）10時～12時
2. 場所：石川県地場産業振興センター第4研修室
3. 出席委員（五十音順）：

小 藤 幹 恵	公益社団法人石川県看護協会会長
菅 沼 直 樹	金沢大学高度モビリティ研究所教授
高 山 純 一	公立小松大学サステイナブルシステム科学研究科教授
中 川 一 成	石川県町会区長会連合会会長（代理出席 外山副会長）
永 山 憲 三	公益社団法人石川県防犯協会連合会会長（代理出席 村田専務理事）
鍋 谷 有 介	公益財団法人石川県消防協会会長
馬場先 恵 子	金沢学院大学基礎教育機構教授
平 櫻 保	一般社団法人石川県建設業協会会長

(議事次第)

1. 開会
2. 議事
 - (1) 石川県成長戦略会議の構成と進め方について
 - (2) 石川県長期構想の概況について
 - (3) 県民意識調査等の結果について
 - (4) 分野別の現状・課題と今後の方向性について
3. 意見交換
4. 閉会

(説明資料)

- 資料1 石川県成長戦略会議の構成と進め方
 - 資料2 石川県長期構想の概況
 - 資料3 県民意識調査等の結果の概要
 - 資料4 現状・課題と今後の方向性（安全・安心な地域づくり部会）
 - 参考1 石川県成長戦略会議規約
 - 参考2 社会経済動向
 - 参考3 第1回成長戦略会議の主な意見
-

1. 開会

【光永企画振興部長】

定刻となりましたので、ただいまから、第1回石川県成長戦略会議、安全・安心な地域づくり部会を開催いたします。

(中略)

最初に議事に入ります前に、座長の選出についてお諮りさせていただきます。参考1にありますけれども、石川県成長戦略会議規約では第6条におきまして、「部会の座長は各部会の委員の互選により選出する」とされております。事務局といたしましては、公立小松大学教授の高山委員に座長をお願いしてはどうかと考えておりますけれども、いかがでしょうか。

(異議なしの声あり)

ご異議もないようですので、本部会の座長を高山先生をお願いさせていただければと思います。高山座長、恐れ入りますが座長席のほうにお移りいただければと思います。

それでは、高山座長からご挨拶をいただきまして、ここからの議事進行につきましてもお願いしたいと存じます。

【高山座長】

座長を仰せつかりました高山です。今日は安全・安心な地域づくり部会ということで、それぞれの専門の委員の方々にお集まりいただきました。今回の石川県の成長戦略では、5つの部会が設けられています。私自身は安全・安心が最後に置いてあるというのは、あまり気持ちよくありません。本来、安全・安心な地域や社会があつてこそ、成長戦略が進められる。安心して経済活動ができ、安心して暮らせる社会になるのではないかと考えておりますので、非常に重要な部会だという認識で進めてまいりたいと思います。今日はどうかよろしく願いいたします。

2. 議事

- (1) 石川県成長戦略会議の構成と進め方について
- (2) 石川県長期構想の概況について
- (3) 県民意識調査等の結果について
- (4) 分野別の現状・課題と今後の方向性について

(事務局から会議資料1～4に基づいて説明)

3. 意見交換

【高山座長】

今、事務局から今日の資料の説明をいただきました。それぞれの方からご意見をいただきたいと思いますが、最後の資料、「安全・安心な地域づくりのための今後の方向性」というところを中心にご意見をいただければと思っています。

今回、初回ですので、全員の方から順番にご意見を賜りたいと思います。名簿順で恐縮ですが、小藤委員から順番に、3分、4分程度でまとめていただけると非常にありがた

と思いますので、よろしく申し上げます。

【小藤委員】

安全・安心というのは目に見えないものですので、どのように進めるかというのは非常に難しいと思いますが、今日は本当に貴重な資料を丁寧にご説明いただきましてありがとうございました。私のほうからは日頃考えていることと、少し座長の先生がおっしゃる範囲を超えてしまうかもしれませんが、5、6点よろしくお願ひいたします。

1点目は、コロナのときの訪問看護をされていて思ったのですが、まず、顔の見える地域にいらっしゃる、地域というところの関係性。やはり、これが足で歩いていけることや顔が見えるということが非常に大事です。防災などについても、組織や遠くにいる知り合いというよりも、そういうところと連携しないと実際にはお世話ができないことがありましたので、地域との関係性は非常に大事だと思います。

2つ目は、若年層の方々と高齢の方々の間に、見解やニーズが違うところがあります。やはり、少子化とはいえ、貴重な未来に向けて若い方々がどのようにして夢をもっていられるかというところでは、早期に仕事、職業というものが安定といいますか、やりたいことがあって、それで収入を得て、そして家庭を築くということをしてほしいかなという意欲が持てる。そうなったときにはいろいろ支援をしますよということはいろいろあるのしょうけれども、何かしてあげるということではなくて、意欲を持てるというあたりがとても大事ではないかと思っております。

それからまちづくりのところ、石川県は非常に食文化であれ、安全のようなことであれ、文化が大きな戦争でも戦禍に遭わずこうやって続いてきたところ。点ではなく広い面で、その文化を知ったり触れたり、あるいは普段の生活に生かす、親しむ、たしなむあたりを、もう少し関連させて、体系だった形で提供されることが、心配ばかりしているよりも心豊かにいることが、自然に安全につながっていくのではないかと思うところです。

もう1つは、女性の活躍ということが昨今よく言われております。この女性の活躍というところの女性に幾ら焦点を当てていても、例えば看護師が足りないときに看護師に幾ら呼びかけていても、家族がそういうところに行くのは危険だ、そういうことをされると自分の家庭はどうなるんだということで、なかなか理解が得られない状況が多くありました。女性が活躍するためには、女性と共にある男性の方々、特にやはり文化や価値観が変わるというのは非常に時間もかかることですが、こういうあたりに何か施策が必要ではないかと思っております。

そして、今、外国の方もたくさん県内にいらっしゃいます。高齢の方で言えばインターネットを使用しない方の比率が高い。女性のDVの問題。障害のある方にどういった支援をしたらいいか。あるいは認知症の方。そういうところは、おしなべて社会のノーマライゼーションというところ。要するに、どこかで線を引いてしまうのではなくて、一緒にやっていく。地域のいろいろなこともそうだと思いますが、そういうところについて考えを深めていくような機会の提供が大事ではないかと思っております。

特に、高齢社会ということで非常によい時代を享受できるところにはなってきたと思いますが、これは自然現象でフレールや認知機能の低下があり得る話ですので、特別視ではなく、そういうところがあって当たり前普通に暮らせる、幸せを感じるというところにもっていくようなことを考えております。

看護では今、看護小規模多機能居宅介護事業所（略して 看多機）というものがありまし

て、調査の中にもありましたような医療や介護や看護が一体としてお家で自分らしく過ごせる。そういうことを支援する仕事がありますので、そういうところもイメージしておりますが、高齢化社会の中で、そういうところが推進されていけばいいと思います。

最後に補足ですけれども、若者のところで追加的に、人生100年時代ということで、今の課題を先延ばしする、人生の課題を先延ばしするような、長いことから後にしてもいいところがあるかもしれません。結婚や出産、育児というのは、それに見合った体力などが重要な時期がありますので、そういうことが自然にそういう時期に適してできるようになることも考え併せて、幅広く多くの人にそういうことが享受できるような関係をますます伸ばしていくことも大事だと思います。長く生きられるようになったからといって、そういうことに苦勞がないわけではないということも知りながら進めていくことが大事だと思います。

【高山座長】

コロナ禍での訪問看護の問題であったり、女性がどのようにすれば活躍できる社会につながるのか、あるいは、外国人であったり、ハンデを持った方々への配慮であったり、意識改革が必要ではないかと、私自身もそのように感じております。

【菅沼委員】

私は学術的な立場で、自動運転技術の自動車の自動化ということを研究しております、その立場でデジタルやAIなど、そういったものを活用しているという観点で今日のお話を伺わせていただきました。

資料4の11ページに、各分野においてどのような方向性をもっていくのかということでお示しいただきました。正直申し上げまして、ここに書いてあることは恐らく、口が過ぎていて申し訳ありませんけれども、当たり前といえば当たり前のことが書いてあると思っております。重要なのは、一番下に書いてある部分かと思えます。新しい時代の潮流を捉えて、10年先を見据えて今、何をやるのか。まさにそこだと思っております。

例えば、デジタルの利用度で若者と高齢者に開きがあるという問題もあるかもしれませんが、今50代の方が10年後には60代、60代の方が70代というふうにどんどん社会が変わっていくということなので、今を見るのか、10年後を見るのかということ、予算、それからいろいろな使い方のどこをターゲットにしていくのかということをしつかり考えていかないと、これは限られたリソースが有効に活用できないということかと思っております。

その中で、資料の中で幾つか拝見しておりますけれども、私も必ずしも専門ではない分野ではありますが、例えば資料4の2ページ目で、防災に関してハードの対策をとっていくということで強靱化を進めつつ、一方でソフトの対策ということで、3ページ目で地域防災力の向上を掲げています。この前、小松やいろいろなところで大きな雨が降ったり、災害が起きておりました。私もこういった防災の専門ではありませんけれども、比較的若い立場ということでSNSなどを拝見しておりますと、例えば、報道で明らかになっているすごく大変な地域、そういったところには民間の方々が自ら支援の手を差し伸べるということが一方、報道でなかなか手当てがいないようなところに必ずしもたくさんの支援がほかの地方からいっていないようなことも、あくまでSNSのメッセージを見る限りではあったように拝見しております。そういった中では、例えばSNSの中ですと、行政とは全然関係の

ない方々が自らそういった支援の手の情報を集約して、ここに行くべきだということを地域の方々と連携をしながら、情報を振り分けるようなこともやっているように拝見しておりました。こういったことは、当然デジタルの革命として非常に重要なことだとは思いますが、本当のソフトの対策というのは、地域住民との対話も当然ですが、それプラスアルファで、それをまとめてどうやって情報発信していくのかということがすごく重要なことではないかと思っております。

ということで、データをどのようにつなげて、そのデータをどういうふうにも有効活用してどう発信していくのか。これがすごく重要だと思っております、何か1つの対策をとるということではなくて、全てを連携して超効率化を図っていく。これがデジタル革命だと思っております。デジタルをいかにして活用していくのか。デジタルはツールであるという話もほかの資料を拝見していると出ておりましたけれども、まさにそれはそのとおりだと思います。有効活用する施策というのを常に考えていただけるとありがたいと思った次第です。

似たような話ですが、資料4の7ページ。私も専門としておりますMa a S、もしくは自動運転という話も書いてあります。もちろん、自動運転というツール、私も研究している立場で積極的に活用していきたいと思っておりますけれども、これは今やるのか、10年後やるのかと考えたときに、例えばMa a Sというところで、ソフトで今あるハードをつなげてやるという考え方もあります。例えば私は週に1回もしくは1回以上、空港を利用するという立場にあります。そういったところで現実的に思っている課題としては、確かに東京に行く便がある。いろいろな場所に行く便がある。それから、金沢駅から空港に行くバスがある。一方で、空港に行くバス、もしくはほかの交通機関との連携がとれているかという、本当はそうではないみたいなのところもあります。

例えば朝一番の飛行機で東京に行くといったときに、私は鉄道を使う場合も結構ありますが、そういったときに鉄道を降りて空港バスに乗るのに40分以上待たされる。そういったところが普通に調べていただければ結構たくさんあります。県の中にお住まいの方々だと、普通は車で行くからいいだろうというところが、県外の方々からするととんでもない状況に本当になっていないのか。そういういろいろなものを連携すれば、デジタルとしてつなぐことによってもっとよくなることはたくさんあると思います。何もお金の問題でやらなくても済むようなソフトの問題。これをぜひデジタルのツールを使って積極的に活用して、解決していただけないかと思っております。

【高山座長】

私もふだんは車ですが、飲み会は当然電車とバスですし、出張のときも電車とバスがほとんどです。そういう意味では、Ma a Sがうまく使えるようになれば非常に便利になるのになあ〜と思いつつ、忸怩たる思いを今しております。

【中川委員（代理出席：外山副会長）】

私は6年ほど前に防災士の資格を取りました。地元の町会連合会の会長として、これからは防災士、自主防災組織を増やして、その意識を高めていこうと一生懸命努力しました。初めは2〜3名でしたけれども、ここ5〜6年の間の効果で30数名。とにかく、いざとなったら、女性の力が非常に大事だと。男は動くけれども、女性はもっと優しく直接人に触れるためということで、約半分、女性の方をお願いしています。

ただ、暮れに2日間、講習を受けて試験を受けて防災士の資格をいただくわけですが

も、そこまでは一生懸命取ってくださいと言います。取ってしまえば、後は自由にやってくださいと。では、何をすればいいのか。それは自分で考えてやってくださいと言われる。何か資格を取らせることに一生懸命で、1町会に1人、1町会に3人と言いますが、では、何をすればいいのかということは、もっと自治体としては明確に示す必要があるだろうと。この地域は崖だよ、この地域は洪水だよ、このあたりは地盤沈下だよと。県全体では地震が大事だと。もっともっと明確な、防災ということに対してのPRを、防災士だけではなくて地域の方に、その土地に合った特色を示してやらなければ、これは一市民がそれをやると大変です。

それから、いろいろ地震のことを言いましたけれども、石川県の場合、羽咋のほうの邑知瀨の断層と金沢の森本・富樫断層を非常に重要視するわけです。ところが、森本・富樫断層と平行して、東のほうに、富山県に大きな断層が2つずつあるわけです。石川県の地震だけを気にするのではなくて、そのあたりはもっと広域的な地震対策をなさっているのかどうか。富山県の情報は我々は全然知りません。富山県に地震があったら石川県が揺れないということはないです。ほとんど同様な震度6、7という強度が来るわけです。そのあたりを資格を取らせるのではなくて、もっと身につくような対応をお願いしたいと思っています。

それから、先ほど防災局で消防という話がありました。金沢は自主消防団員が非常に活発なところです。近年、数字では団員はそろっています。これは、頼む、頼むと名前を貸した団員がたくさんいます。そのポンプ車のあるところから大分離れたところに通勤しているわけです。そうすると、例えば問屋団地に住んでいます。私の地域は味噌蔵です。そうすると、問屋団地から行くのに30分かかるわけです。なるべく地元の消防団員をお願いしたいけれども、地元ではそれだけのものが確保できない。

ポンプ車は、3人の人間がそろわないと出られません。3人そろわないと、運転手とポンプを操作すると3人がいないと消火活動ができないのです。そのあたりが、団員はそろっているが実働率は非常に少ない。確かに機械などは入っていますけれども、もっと有効にできるようなものが必要なのではないかと思えます。

また、消防にしても今の防災にしても、もっと市民にPRできるような場所、施設が必要ではないか。物事を実感できるような。例えば、石川県金沢に洪水や風雨を実感できるような施設がないのです。防災パークのようなものがあって、常日頃そこへ行って研究する。公民館活動か何かの折にそこへ行って、いろいろなものを感じてくる。それが大きなPRになってくるのではないかと思えます。

もっといろいろあるのですが、そういうことはともかくとして、もっと防災、先ほど高山先生もおっしゃいました。いろいろな部会があるようですけれども、私が思うのは、安心できる、安住できる地域にいて初めていろいろな社会生活ができるわけです。何かそういうことに不安をもっていると、そのうちここは災害が多いからどこかへ越そう、交通の便が悪いからどこかへ行こうと。やはり根本は、住民が主体であって、安住できる安心・安全な地域があって、本当の我々の生活ができるのではないかと思えます。そこを常に忘れてはいけないと思っています。

【高山座長】

私の父親も地元の消防団員をずっと長いことやっておりました。最近はややかな消防団員になる方も少なく、ある意味サラリーマンの消防団員はなかなか駆けつけられないという状況があるというのがよく分かりました。それと、恐らく災害は忘れた頃にやってくると。

そのとおりだと思いますので、そういう意味では、日頃から防災意識をいかに住民の方に、持っていただくかということが一番重要で、今ご提案があったような、そういうことを意識するような、名前はどうか分かりませんが、防災パークのような施設なり機関があれば、そこで子ども達への防災教育も含めて、いろいろなことができるのではないかと思います。

【永山委員（代理出席：村田専務理事）】

当防犯協会連合会ですけれども、犯罪のない安全な社会実現を目指すことを目的に、警察等関係機関の皆さんと協力いたしまして、防犯思想の高揚などに努めているところです。今ほど説明を伺いました治安対策のほうで、特殊詐欺被害が今年はとても増加しているという内容がありました。特殊詐欺の被害防止に関しましては、うちの連合会のほうでも新聞やラジオ等の放送を活用した被害防止や、地区の防犯協会が各警察署にありまして、警察と連携してキャンペーンや、地域安全メールの発信を行う取組等を行っています。ただ、なかなか被害が後を絶たないというのが現状でして、どうすれば被害をなくせるのか、頭をひねっているところです。

そういう中で、被害の特徴、現状で、還付金詐欺がすごく増えています。固定電話、自宅の電話にかかってきた電話がきっかけで高齢者の方が被害に遭っていることが多いという現状で、こちらのほうでも聞いております。こうした被害の防止に効果的ということで、ATMコーナーに行くと注意喚起が流れるスピーカーや、自宅の電話機に接続することで犯人側に警告メッセージが流れる機械など、そういう被害防止の機材が販売されていて、実際にそれで被害防止もあったということで、効果が出ていると聞いております。

うちの連合会でもこうした機器の設置の呼びかけをしているところですが、県のほうでも、県民の皆さんがこうした機器を利用していただいて、特殊詐欺の被害に遭わないよう、被害防止について今後とも取り組んでいただければと思います。

【高山座長】

詐欺については、やはり一人でいると被害に遭いそうになるので、周りがいかにサポートできるかという、そういう体制づくりがものすごく重要ではないかと思つづく思いました。

【鍋谷委員】

今現在、消防団が抱えている問題を克服することが、地域の安心・安全につながると確信をしております。現状を皆さんもほぼ想像がつくと思いますけれども、幾つかの問題点をこちらのほうで挙げさせていただいて、現状説明という形にさせていただきたいと思つた。

まず一番は、やはり定員問題というのが大変な問題です。全国に100万人以上の消防団員がいたこともつい数十年前。今現在は80万人、ひょっとしてもう切るのでないかという形をとっております。もちろん、女性消防団員の方々に積極的に入団していただいたり、あるいは、金沢の場合ですけれども、消防団OBでまだまだ戦力になるような方々を機能別団員ということで数年間、地元の火災出動等々、地元災害出動に限って出て行かれるような、そういう工夫もしているところです。それでもなかなか定員に満たない、定員の減少。それと高齢化ということで、なかなか歯止めがかからないというのは石川県内19市町の消防団の大きな問題点であります。

先ほど外山副会長さんのほうから、入団を無理やりと。無理やり入団というのは結構あり

ますけれども、結局、3年間1度も出ないで辞める、いわゆる我々が言う幽霊団員や、あるいは、いても本当に日中何時間しかいない。あるいは日中はほとんどいない。そういうときに、日中の火災害にどう対応するのか。そういうところも実は大変な問題です。その辺のところをどのように克服していくかということを我々は日夜思っていますけれども、なかなか妙案が出ない。

例えば、消防団というのは日頃こういう活動をしているのだということをいろいろなメディアでPRすることも、日本消防協会も我々県消防協会も、各市町の消防団も努力をしています。ただ、そこにもいろいろなジレンマがありまして、例えば、大きな災害がある。火災害がある。自然災害がある。消防団が目立つ。赤い車が目立つ。そこで、やはり消防団というのは心強いな。あるいは、それを我々が各地で直接、間接にPRする。そこにおいて、消防団というのは大変だなというイメージがまたクローズアップされてきて、特に今現在は、地域差はありますけれども、恐らく7割ぐらいの方がサラリーマンの方で、なかなか飛び込んでくれないという現状があります。そういうことも踏まえながら、我々は今、暗中模索というわけではありませんけれども、何とか定員増というより定員維持、そういうところも考えているのが現状であります。

それと、これはあまり表には出ないのですが、消防団というのはある意味では常備消防ではありませんので、各消防団によって若干の消防力の差があります。例えば金沢市においても、定員35名のところもあれば、定員20名のところもあります。これは、今から70年80年前に設定をされた定員であって、例えばその当時は在所だけだったところが、今は例えば10,000人の人口である。でも、消防団員は20人のまま、80年前のまま。あるところは、昔は町だったと。でも、現在は人口減で、人口が2,000人ぐらいのところは35人消防団員がいる。そういうような、いわゆる消防力の、分団力の差が地域別にかなりあるということも、実際事実の話であります。そういうところも、我々は克服をしていくということがこれからの課題なのかと思っております。

また、自助、公助、共助という形で、我々消防団は共助というところになるのでしょう。やはり、方法は分かりませんが、地域コミュニティ、地域力が強いところというのは、つまり安心・安全力、防災力も強いところだというのは我々も確信するところであります。

もう1つ付け加えて申しますと、これから深く入っていかねばいけないと思うことは、消防団員で防災士を取っている人間もかなりいるわけですが、防災士と消防団員のいわゆるバランスというか、兼ね合いというか。消防団員であって防災士という方もかなりいます。せっかくダブルで、消防団員であって防災士の方もいるので、そのようなところも我々で何か肉付けをし、答えを見つけないかと思っております。

もう1つ、様々な現場の人間から実感として伝えられることで思うことは、国はいろいろな意味で自然災害が起きたら避難云々ということ、より分かりやすく、より説得力をもって最近はやっています。ところが、本当に被害があったところは避難するのだろうが、なかなか皆さん、防災無線やメディアで聞いても動きが悪い。私は行かなくても大丈夫だろうという安全バイアスといいますか、そういうものがあって、これもまた現実です。我々消防団の努力が足りないところもありますが、そういうところも皆さん方でご議論いただいて、我々消防団としてできるところは積極的にやっていきたいと思っております。現状ではそのようなところが問題点、あるいは努力目標かと思っております。

【高山座長】

昔は割と消防団は自営業の方や農業をやっている方が多くて、サラリーマンが消防団員にならなくてもいい時代だったと思います。最近はみんなサラリーマンになってしまって、先ほどもありましたけれども、なかなかいざというときに駆けつけられにくいところに勤めている人も多いという状況があります。できれば、やはり自営業の方や農業を専業にやっているような方を中心に勧誘していただければと思います。

【馬場先委員】

安全・安心の地域づくりは、今回の戦略会議を行ういろいろな項目全てに当てはまる一番大事なところでもあり、また、何に焦点をあてたらいいのかということは本当に難しい、そうした会議になるのではないかと感じて参加させていただきました。最後の方向性のイメージというのは、それを中心に見ていくという計画で行われているのかなと思いました。また、この出席者名簿を拝見しますと、それぞれの専門の方々がいらっしゃって、さて、私の担当は何だろうと非常に悩ましいなと思って見ていました。恐らくは、これで言ったらまちづくり関連かなと考えておりました。

そうした中で、先ず、大きな視点で捉えてみて、何を対象にして計画したらいいのか。あるいは、県が行うべき立場、どういう立場をとったらいいのかということが重要なのではないかと思います。

特に、現在どういった問題があるのかということ、1つは最近になって新たに発生しているような問題、例えば、デジタル系の発展によるいろいろな安全・安心でないようなことが起こり得るとのこと。また、最近の自然現象、気象、地象について異常気象なり地震なりといった問題が最近になって注目されるようになってきたということです。そうした新たな問題に対して。もう1つは、これまでも本当はあったけれども、さして大きなことではないだろうとあまり注目していなかった、あるいは、気にしていなかったけれども、実は重要な問題になってきている問題もいろいろとあると思います。例えば、女性の活躍の問題もそうだろうと思います。男社会の転換というような、先ほど小藤委員もそういったことに関連したお話もされました。そうしたことなど、気がつかなかったけれども、やはり現代において重視していかないといけない問題、そうした2点から見ていく必要があると思います。

先ほどの県の立場を考えることと、対象を何に注目すべきかということの2軸についてと、問題の種類、つまり、新たな問題、あるいは今までもあったけれども、これから重視しないといけない問題にどのように計画するか考えていきますと、安全・安心の中で一番注目しないといけない対象というのは、やはりいろいろなところで弱い立場になる人たち。もしも安全でなかった場合に、一番被害をこうむりやすい立場の方々。例えばよく生活弱者、交通弱者、災害弱者という言葉なども言われますけれども、高齢者、障害者、あるいは障害者の中には妊婦も含まれると思います。あるいは小さなお子さん。そしてまた、少数者という意味では外国人。海外から外国人がいきなり観光先で地震に遭った場合にどうしたらいいのか。そうした問題も生じてくると思います。そうしたいわゆる弱い立場の人たちも意識したユニバーサルな対策をすることによって、全ての人が安全で安心な地域づくりになっていくのだと常々考えております。

そして県の立場としてどうするべきなのかについてですが、ここの防災などを見ていてもハード対策とソフト対策という言葉が書いてあります。ハード面では、やはり県がイニシアチブをとって重要な内容について市町に対して指標を示すなり、あるいは、しっかりと国もしくは広域なところと連携をとったことを示すというような、そういった指標づくりが

重要だと思います。

また、ソフトの場合には、それを今度はいかに連携をとっていけるかということが必要だと思います。もちろん、国や広域な立場も大事ですし、また、県がそれぞれの市町によく目を行き届かせて、市町あるいは地域レベル、そして住民に至るまでの連携をまずとっていただく。あるいは、官民の連携。

そして、石川県としては大所高所からの視点がどうしても大事です。例えば、能登のような小さな自治体の場合には、どうしても手の届かないような施策をしっかりと目が行き届いて支援の手を差し伸べることができるような体制をとっていかないと、石川県全体が安全・安心な地域づくりに向けての政策づくりは難しいのではないかと考えております。本当に一般論、あるいは概要しか今のところ言えないのですけれども、そうした県の立場を意識したような計画づくりを進めていただきたいと思います。

【高山座長】

私も今、馬場先先生が言われたように、いろいろな弱い立場の人をいかに守っていくか、これは恐らく平常時もそうですし、非常時もそうだろうと思います。県の役割とすれば、国との関係、あるいは市町との関係、あるいは官民を連携するということを指導していく立場にあるのだらうと思いますので、非常に重要なご指摘ではないかと思えます。

【平櫻委員】

私はインフラの整備あるいは維持管理に携わっている立場ですので、多分、ハードが中心の発言になると思いますけれども、ぜひご理解いただきたいと思います。

以前、「コンクリートから人へ」という国策のもとで国が動いているときがありましたけれども、その頃、多分、皆さんのご記憶にもあると思います。八ッ場ダムの計画を中断して放置された。あるいは、熊本にあります川辺川ダム。これは国策もさることながら、地域での反対もあったようで、これは現在も中止されたままという状況です。近年、非常に災害、特に豪雨による災害、あるいは河川災害が多発しております。先般ありました、8月上旬に小松、加賀を中心にした大きい災害。8月後半には能登を中心にした豪雨災害。石川県は比較的、全国的には災害の少ない地域だと認識していましたが、足元では、今年だけをとっても大きな災害が発生しています。

今から3年ほど前、東日本豪雨の際に大変大きな被害が起きました。八ッ場ダムはご存じのとおり、たまたま今の政権になって工事を再開し、完成をみた段階で大きな洪水被害が起きたわけです。試験湛水の状況で非常に活躍いたしまして、危惧されておりました利根川の災害も未然に防ぐことができました。片や、先ほど申しました川辺川ダムは、大変大きな被害、特に人的被害が大きかったのですが、これらにしても、もし川辺川ダムが実際に施工されていれば、災害は起きたかもしれませんけれども、あのような悲惨な人的災害をみることはなかったのではないかと考えています。

先ほど申しました8月の小松の災害、あるいは能登の災害につきましても、本流の梯川は以前から計画的に改良工事が行われておりましたので、小松市街地内で氾濫するような大きな災害は幸い防げております。ただ、支流との合流点はやはり非常に河川が弱く、この辺を中心にした氾濫が中海あるいは中ノ峠の地区等で発生しております。私の記憶では、確か住宅被害について、損壊が約10棟、床上・床下の浸水で1,300棟ぐらいの被害になっております。人的な被害がなかったということが1つの救いかと思っておりますけれども、これらに

についても、やはり事前の対策ができたものですから、最小限の被害で済みました。

また、能登地区につきましては、以前から石川県が国に訴えておりました河床掘削、川の底を浚渫するのですが、このことを国でも認めていただいて、昨年あたりから国の予算としてもこの掘削に予算がつきました。そのおかげで、能登の脆弱な河川の氾濫を防げたということです。こういう立場で考えたのですが、冷静に見ても予防に対するコストと事後に対するコストというのは恐らく相当の開きが出ています。ぜひこれからも安全・安心を求めて、さらなる投資をお願いしたいと思っております。

この資料にありますけれども、せっかく整備されたインフラが経年による劣化が相当進んでおります。政府も調査を進めておりますけれども、残念ながらもなかなか補修、メンテナンスするまでまだまだ予算等がこないようですので、せっかくのインフラですので、長寿命化を図る必要があるのではないかと考えております。

もう1つ、石川県の大きい課題であります交流基盤の整備です。これは都市の活性化や交流人口の増加を目指す上で非常に重要なテーマだと思っております。北陸新幹線が開通して7～8年経過しているわけですがけれども、隣の富山県と石川県を比較すると、金沢から見ると富山は少し落ちていると思っておりますけれども、駅前の基盤整備は金沢が新幹線の開通に間に合わせるということで進めていましたけれども、富山県では開通した今、手をかけている状況だと聞いております。やはり、その辺の差が今日の現状の差ではないかと考えています。

国の限られた予算の中で、大変な状況だと思っておりますけれども、ぜひ社会インフラに対する投資も、文字どおり人命の安全・安心という立場からご理解いただき、それを、勇気をもって推進していただければと思います。

【高山座長】

ご指摘のとおりだと私も思います。恐らく災害が起きて復旧する予算は現状復帰までということですので、逆に言うと、予防的対策を事前にしておけば、災害も大災害には至らないかもしれません。そういう意味では、限られた予算の中でメリハリをつけるといいますか、優先順位をどのように考えていくかということが、恐らく一番重要なのではないかと考えます。

それぞれの委員から非常に貴重なご意見をいただきました。私は座長という立場ですが、一委員でもありますので、私からも一言発言をさせていただきたいと思っております。

先ほど少し申し上げましたけれども、やはり安全・安心な地域づくりのためには、平常時の安心、ある意味防犯も含めて、それをどのように行っていくかということと、非常時に災害が起きる、あるいは起きそうになったときに、どのようにそれを対応していくのか。そこがきちんとしておく必要があるだろうと思っております。

平常時については社会がどんどん変わっていきますし、今の新型コロナウイルスの話もありますので、なかなか10年後を見据えて考えたときに、今の新型コロナがずっと続くとは私は思っておりませんが、それでも何らかの形で関連性は残るかもしれません。その辺も意識しながら対応を考えていくべきではないかと考えています。

先ほど防犯の話がありました。子どもをいかに見守っていくかということは非常に重要ではないか。安心な社会は、そこに尽きるのではないかと考えます。最近、いろいろなデジタル装置、センサー等もたくさん開発されていますから、子どもがどこにいるか、あるいはどこで遊んでいるかということも地域全体で見守るような仕組みをきちんとつくれたらと思っております。

それから、特に能登へ行くと、小中学校の統廃合がどんどん進んでいます。小中学校まではスクールバスで対応できますから何とか大丈夫ですけれども、高校生になると途端にスクールバスがありませんので、そうすると公共交通がないと困ります。よく聞くと、ほとんど両親や家族が送り迎えをしている状況にある。これが本当にいいのかどうか分かりませんが、そういうことがなくても高校生自らが自分で部活も含めて活動できるような、そういう社会は最低限必要ではないかと思っています。そういうことを考えると、公共交通としての鉄道であったり幹線路線バスであったり、そういうものをきちんと維持していく、守っていくためには、地元の自治体だけでは十分ではなくて、やはり国や県が広域的な公共交通を維持していく役割は非常に大きいのではないかと思っています。

それから、非常時になったときに、先ほどもありましたけれども、いろいろな弱者の方の弱者でないような対応、平常時と変わらない対応ができるような仕組みづくりがやはり重要だろうと思います。それはやはりソフトですので、そういう意味では特に石川県は観光客が非常にたくさん来ますから、外国人あるいは観光客、来街者が非常時でもきちんと対応できるような仕組みづくりをすることが大事だろうと思います。

それから、先ほどありましたが、インフラの長寿命化は避けて通れない時代になってきていますので、そのためにはデジタル技術の活用は当然ですけれども、モニタリングをどう進めるのかということが恐らく大事ではないかと思っています。最近橋については何とか対応ができるようすけれども、橋以外にも擁壁であったり、いろいろなインフラ施設がありますから、そういうインフラ施設に対してもきちんと対応できるような仕組みをぜひつくってほしいと思っています。

最後ですけれども、最近私は救急を専門にしております、そういう意味では、石川県は数年前にドクターヘリを入れていただきました。非常に効果が大きいだろうと、時々新聞にも導入効果が出ておりますので、能登の人あるいは加賀の人が安心して暮らせる世の中になったのだろうと思っています。ただ、ドクターヘリというのは、日中の天気のいいときしか飛ばません。そういう意味では、天気が悪かったり、夜間は、どうしても救急車に頼らざるを得ないわけです。そのことを考えたときに、今、金沢都市圏では自治体をまたいで広域救急の仕組みができつつあります。これをぜひ、石川県全体に拡大してほしいものだと思います。石川県には4つの二次医療圏が置かれていると聞いておりますので、それぞれ二次医療圏の中ではお互いに融通し合えるような救急体制をきちんと確立していけば、少なくとも少しは安心して暮らせる世の中になるのではないかと思っています。

特に石川県は高齢化率が非常に高い地域があります。県全体で見ると割と低いらしい（全国で30数番目ぐらい）ですが、能登は珠洲市も能登町も穴水町も、最近のデータですと50%以上の高齢化率で、輪島市もそれに近いらしいです。そういう意味では、2人に1人が高齢者という状況では、恐らくあと10年、あるいは20年したら、もう亡くなっている人もたくさんいるかもしれませんけれども、そういう高齢者が増えてくると、どうしても救急というのは非常に重要な役割をもつはずですので、融通し合えるような救急体制の施策を進めていただければと思っています。

それでは、今日いただいた意見については本会議、石川県の成長戦略会議に報告しなければいけないことになっています。私のほうで事務局と調整しながら取りまとめて報告したいと思いますが、ご一任いただけますでしょうか。

(異議なしの声あり)

どうもありがとうございます。私が責任をもってそれぞれの委員のご発言なりを取りまとめて、成長戦略会議のほうに報告したいと思います。よろしくお願いします。

以上で今日予定していた内容は全て終わりました。それでは、第1回石川県成長戦略会議、安全・安心な地域づくり部会をこれで終了したいと思います。どうもありがとうございます。事務局に進行をお返ししますので、よろしくお願いします。

4. 閉会

【光永企画振興部長】

高山座長、ありがとうございました。

委員の先生方におかれましても、本日、現状課題、今後の方向性についてということで幅広くご意見をいただきまして、本当にありがとうございます。いただいたご意見の中では、本部会に関わるものもあれば、ほかの部会に関係するようなご意見もたくさんいただいたと思います。実際に成長戦略会議の親会議に上げる際にはこの部会の意見ということで高山座長に取りまとめていただきますけれども、ほかの部会に関わることにつきましては、事務局のほうからきちんとその部会のほうに申し伝えさせていただいて、反映させていただけるように工夫したいと思っておりますので、ご理解いただければと思います。

本日は本当にお忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございました。次回、第2回の会議につきましては、改めてまた日程調整、資料も調整させていただいて、ご相談させていただければと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。